



平成21(2009)年11月24日(火)発行

発行者 小浜市多田2-2 中山クリニック 院長 中山茂樹

http://www.nakayama-clinic.jp

30年前から始まっていた
それは

院長 中山 茂樹

急に寒くなり、同時に小浜にも新型インフルエンザの流行が見られます。皆さん、どうか、絶対かからないようにして下さい。

今、各地の病院で産婦人科の勤務医が少なく、余りに多忙であると言われていますが、それは、私が産婦人科に入局する30年前からその減少の現象は始まっていたのです。私の所属した大学病院の場合、入局者が例年7～8人だったのが、いつの間にか2～4人になっていました。新人の医者が3Kといわれる産婦人科医から離脱し始めていたのです。

さらに診療報酬が総ての診療科目において平等にして下げられたため、産婦人科の開業医のほうは3Kの上に設備投資、人件費の上昇などで運営が成り立たなくなり始めたのです。そこで15年ほど前から開業医がどんどん辞めていきました。その上、片や、高度医療(体外受精など)により多胎によるハイリスク妊娠が増えたため、正常妊娠の人でも大病院に行くようになりました。それまでは開業医と大病院の役割分担があったのがボーダーレスになったので、開業医はハイリスクの分も引き受けながら運営をしていかねばなりません。

単純に産婦人科医の減少が本源なのですが、この解決策はそう簡単なものではないようです。しかし、たまたまこれを書いている時、現政府は産婦人科と小児科の診療報酬に限り増額する方向で検討を開始したというニュースが流れてきました。それにより、今の状況がどこまで、いつ頃、解決するのか。にわかに現状の特効薬「産婦人科医の増加」にはなりえないと思われまます。これまで行政が医療を国民のための視点ではなく、医療費の削減の視点ばかりで扱ってきたつけがきているからです。先述したようにそれは30年前に分かっていて欲しかったと言いたいですね。

昨今、私の産婦人科の友人は分娩の取扱を辞め始めています。中都市ではますますお産難民は増えることでしょう。しかし、私は産婦人科医として必要とされている間はこの地域医療のお役に立つよう出来る限り尽くすつもりです。但し、2人分働く覚悟で。今が一番体験豊富

な時だと思うので…。

さて、話は変わりますが、私の過酷で、身も心も磨り減らす!!日々の中で、ほっとする時間がボランティアに関わる時間です。過日、カンボジアの子供達にはぬいぐるみを、フィリピンのラーニングセンター(職業実習場)には布切れ(ミシンの練習用)やパソコンを、皆様のご提供により送りましたところ大変喜ばれました。日本においては不要で捨てられるものが生き還りました。これからも現地からのリクエストがあれば皆様にご協力をお願いしますので、どうか、宜しく。

親孝行

厨房 中川 弥生

先日、母と二人で一泊旅行に出かけました。

子供の頃は毎年、家族で一泊旅行に行っていました。大人になるにつれて友人と行くようになり、母と行くのは高校以来でした。

きっかけは美味しそうな料理が並んだ一枚の旅館のチラシです。最初は日帰りの予定でしたが、温泉もあるということで一泊することになりました。旅行に行くのが十数年ぶりの母は予約をしてからはとても嬉しそうで、毎日ウキウキしていました。そしていよいよ旅館に着いて、部屋にある展望風呂に入り、おいしい料理を頂き、とても満足してくれましたが、ところが、やはり長年の専業主婦ですね! だんだん家のことが気になるもよう。なんだかソワソワしてとても心配してきました。

翌日も朝食を食べるやいなや、またまた落ち着かない様子。結局、その後はそそくさと家に帰って来ました。たった一日も主婦業から脱出できないなんて! 主婦には主婦の思いがあるようで…

ゆっくりできなかったのが少し残念でしたが10ウン年ぶりに母との二人旅はいい思い出になりました。親孝行とまではいきませんが、また、一緒に行きたいと思いました。(今度は日帰りにしようかな(笑))

… … … … … … … … …

《あ と が き》 1) 院長の文の頭にもありますように新型インフルエンザがじわじわと流行しております。丁度90年前のスペイン風邪のようにバタバタと人が倒れるような悪性ではないようですが、油断されませんように。当院では職員も出来る限りマスクをしますし、皆様にも院内ではマスクの着用をお願いしております。どうか、ご協力下さい。 2) 待合室のミニ・ギャラリーでは8月から中森あゆみさん(若狭町杉山)の亚克力画を展示しています。11月から一部差し替えました。ご鑑賞下さい。